

沖縄県竹富町 様



AIアナウンスサービス「YUTTE」を導入。
防災行政無線における音声自動化と多言語
対応で、職員の負担軽減を実現。

概要

沖縄県八重山郡に位置する竹富町。防災行政無線は、災害時のみならず、日常の重要な情報伝達手段として活用されてきましたが、放送業務を防災危機管理課の職員が一人で担っており、負担の大きさが課題となっていました。

その状況を変えたのが、AIアナウンスサービス「YUTTE」の導入です。「YUTTE」は従来一人に集中していた放送業務を、各課が主体となって運用できる仕組みへと転換。現場で無理なく運用できる設計まで含めて構築されたことで、職員負担の大幅な軽減と、多言語対応による情報発信力の向上を同時に実現しています。

お役立ちのポイント

「放送を特定の担当者に依存しない体制」を構築する
竹富町とTOAが実現した防災無線運用の転換

竹富町では、防災行政無線を通じて、災害情報に加え、町内イベントや行政からのお知らせを日常的に発信していました。

しかし、その運用は「各課から届く依頼書をもとに、防災危機管理課の職員がすべて肉声で収録する」という形で、特定の担当者に大きく依存していました。録り直しも多く、本来各課が担うべき周知業務まで防災危機管理課が抱え込む状況となっており、多言語対応も課題となっていました。災害時には翻訳ツールを使いながら肉声で対応していたものの、迅速性や業務負担の両面で限界がありました。

TOAが支えた運用変革 持続可能な防災無線体制を構築

こうした課題に対し、竹富町が選択したのがAIアナウンスサービス「YUTTE」です。

まずは職員の負担軽減を目的にβ版を導入し、現場で試行しました。その中で、「YUTTE」は単なる音声作成機能にとどまらず、各課がテキスト入力するだけで高品質なアナウンス音源を作成できる点や、防災危機管理課が最終確認と防災行政無線の運用に専念できる点が評価されました。

この「運用フローの転換」が現場で無理なく機能することを確認できたことに加え、正式版では多言語音声を一括で作成・放送できる機能も活用できることから、災害時の情報発信力向上にも対応できると判断し、継続採用になりました。

TOAでは、竹富町の実際の業務運用に合わせて、特定の担当者に依存しない防災行政無線体制を構築し、持続的かつ効率的に情報発信が行える運用基盤を実現しています。

システムの特長と効果

- **音声作成の自動化と分散運用により、負担軽減と安定した放送品質を実現**

テキスト入力でアナウンス音源を生成できるため、肉声による収録や録り直しが不要となり、省力化を実現。各課が自ら音源を作成する運用への変更により、防災危機管理課への業務集中を解消しました。

- **多言語音声を一括で作成し、迅速な情報発信を実現**

複数言語の音声を同時に生成できるため、災害時や観光対応においても、スピーディな情報発信が可能となりました。

- **辞書登録・音声調整機能により、地域特性に対応した音声品質を確保**

沖縄特有の地名や固有名詞の発音にも対応でき、防災用途に適した、聞き取りやすい明瞭な放送品質を実現しています。

納入品	YUTTE
納入時期	2026年1月

インタビュー記事



「日本語も多言語も、まとめてすぐアナウンス音源を作成できます。」

YUTTEが導入されて、防災危機管理課職員の負担が大幅に軽減されました。」

沖縄県 竹富町 防災危機管理課
係長 宇根 啓士郎 様

- 今回、YUTTE導入を検討された背景を教えてください。

宇根 様

竹富町では、防災行政無線を通じて災害情報に加え、町内イベントや行政からのお知らせなどを日常的に発信してきました。放送音源は各課から「無線放送依頼書」を提出してもらい、防災危機管理課の職員が肉声で収録する運用で対応していました。収録時間もかかりますし、噛んだりして録り直しも多く、大きな負担となっていました。

また平常時は日本語のみの放送でしたが、災害時には必要に応じて翻訳ツールを使用して肉声による多言語放送を試みていました。この多言語放送の負担もありました。

- β版の導入から正式版の契約に移行された理由は？

宇根 様

このような運用上の課題に対し、職員の負担軽減を目的に2024年に導入したのが、無料体験版のYUTTE β版です。防災危機管理課で実際に使用する中で、音声作成の効率化や操作性の良さに手応えを感じ、各課が自ら音源を作成する現在の運用体制へと移行しています。

また、β版が使えなくなることによる負担増を避けるとともに、これまでの運用で十分な効果が確認できたことから、正式版の導入を決定しました。正式版では、多言語音声を一度に作成し迅速に放送できる点が大きなメリットとなり、災害時の情報発信力向上にもつながると判断しています。

- 現在の使用状況、便利になった点は？

宇根 様

災害対応など緊急時の情報伝達や町内イベントや役場からのお知らせ、啓発活動、各課からのイベント告知などを含めると、年間ではかなりの数になります。体感としては、1日1、2回は放送しているのではないのでしょうか。

最も大きな変化は、職員が肉声で収録しなくてよくなったことです。これまでは防災危機管理課が、各課からの依頼をもとにすべての音声を自ら録音していましたが、YUTTEの導入によりその作業が不要となりました。その結果、防災危機管理課は本来担うべき最終確認や運用に専念できるようになり、業務負担の大幅な軽減につながっています。

- 他の自治体について、どのように「YUTTE」が活用できるとお考えですか？

宇根 様

まだ肉声で音声を収録している自治体にとっては、業務負担を軽減する一つの選択肢になると思います。更新までのつなぎとしても有効ですし、同じような課題を抱える自治体であれば、十分活用できる仕組みだと感じています。

- 今後の展望をお聞かせください。

宇根 様

今後については、これまでの運用をしっかり継続しつつ、多言語機能をどう活かしていくかがポイントになると考えています。竹富町は島々が海で隔てられており、役場も石垣市にあるため、DXを活用して距離を縮めることが重要です。YUTTEもその一つで、放送業務を効率化することで、限られた人員でも安定した情報発信が可能になります。

今後は災害時だけでなく、外国人観光客が多い時期や大型クルーズ船寄港時など、状況に応じた多言語放送も検討していきたいですね。

納入商品



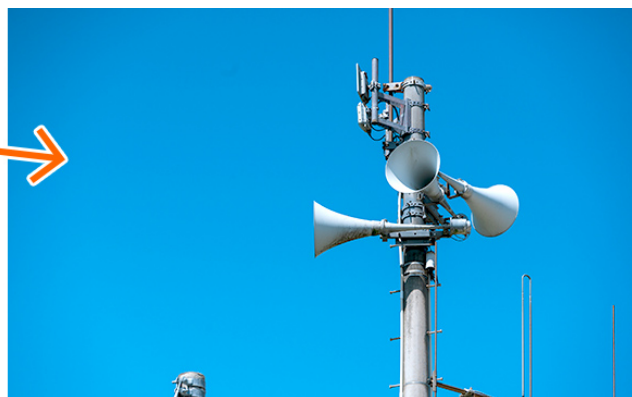
AIアナウンスサービス「YUTTE」の入力画面。AIのアシストで多言語のアナウンス音源を音声合成で作成することができる。



AIアナウンスサービス「YUTTE」の単語登録機能。沖縄特有の地名や固有名詞を登録し活用している。



コンドイビーチ前の防災行政無線スピーカー。



いのた会館に設置されている防災行政無線スピーカー。竹富町全体で33カ所に設置されている。

竹富町の概要



竹富町は、沖縄県八重山郡に位置する日本最南端の町です。西表島、竹富島、小浜島、黒島、波照間島、鳩間島など9つの有人島と周辺の無人島から構成されています。町域の大半は西表石垣国立公園に指定されており、豊かな自然環境と希少な生態系を有しています。また、赤瓦の集落景観や伝統行事など、島ごとに受け継がれてきた文化も大きな特長です。

島々が海で隔てられ、町役場は石垣市に置かれているという地理的特性から、地域の実情に即した行政運営やDXの活用にも力を入れ、自然・文化と共生する持続可能なまちづくりを進めています。

DATA

竹富町

<https://www.town.taketomi.lg.jp/>

導入商品



AI アナウンスサービス
「YUTTE」